掛塚屋台と立川流

掛塚の屋台は、諏訪立川流の影響を強く受けています。立川家は、諏訪に生まれた初代冨棟から四代冨惇までが和四郎を名乗り、信州や東海道筋で優れた建築や彫刻を残しています。立川流の建造物は、信州の諏訪大社を始め各地にありますが、県内では静岡浅間神社の彫刻をはじめ、横須賀の三熊野神社や見付の淡海国玉神社の社殿などに残されています。

本町屋台の彫刻。冨種の「八岐大蛇」（懸魚）と伝十の「虎に獅子」（欄間）

掛塚では、中町の旧屋台が、二代冨昌の娘婿、立川昌敬によって制作され、新町屋台の彫刻も、和四郎が三年かけて作ったものと伝えられます。また、本町屋台は、その製作を依頼された三代冨重の弟、専四郎冨種が、鬼板懸魚、欄間の彫刻を手がけ、屋台は掛塚の大工、鈴木伝十らに任せたといいます。立川流の技を学んだ鈴木伝十は、晩年砂町屋台の彫刻を手がけ、町外でも高い評価を得ました。

明治十四年に貴船神社の神輿を製作した鈴木勇次郎は掛塚の大工で、多くの弟子を育てましたが、そのうち坂田歌吉、平野勘蔵の二人は、それぞれ中町・蟹町（坂田）、横町（平野）の屋台を製作し、さらにその子孫（小池佐太郎・清、平野孝・道雄）も屋台大工となって、遠州地方の多くの屋台製作に携わり、掛塚型の屋台を広めました。

掛塚まつり屋台囃子

掛塚の屋台は、囃子を奏でながら神幸行列に供奉する囃子屋台と考えられます。

この囃子は、静岡県指定の無形民俗文化財になっており、八曲が伝承されています。その中には、南北朝時代に後醍醐天皇の皇子、宗長親王が白羽の湊に漂着したときに、親王の家臣から伝授されたと伝わる「御公卿（おくげん）囃子」があります。この曲は、祭りが終わって屋台が自町へ帰る時に演奏される曲で、荘重な趣があります。

駒ケ根市に招かれて演奏した舞台

このほか神楽囃子、馬鹿囃子、出船囃子、入船囃子、大庭囃子、本囃子があり、屋台の動く場面によって曲目を変えていきます。また、道中（みち）囃子は、演奏する人が屋台に乗らず、道を歩きながら奏でるもので、楽器も鼓、大鼓、錫杖などが用いられる、他の曲とは一風変わった囃子です。県内の祭囃子の多くは関東系の囃子ですが、掛塚は西からの影響を受けているようです。

昭和四三年に「掛塚屋台囃子保存会」が結成され、以来文化財の継承に努めています。小学校での演奏指導など、後継者を育成する活動をはじめ、関東ブロック民俗芸能大会への出場や、「いわた大祭り」などの地元のイベント、国際交流活動などへの参加を通して地域の活性化にも貢献しています。

ＪＲ磐田駅・浜松駅からバスで30分
東名磐田IC・豊田スマートIC・浜松ICから車で30分
駐車場は、掛塚橋下の河川敷をご利用ください

ナイスパスは
遠州鉄道株式会社 磐田営業所 0538-32-4161
遠州鉄道株式会社

あなたの夢に、追い風を。
浜松いわた信用金庫
竜洋支店 TEL 0538-66-3231 FAX 0538-66-4160

静岡銀行 竜洋支店
TEL 0538(66)2724
2620018

ときめきネットワーク
JA遠州中央 竜洋支店
TEL0538-66-2411 FAX 0538-66-6668

社会福祉法人 白寿会
〒438-0234 静岡県磐田市掛塚3172番地
TEL (0538) 66-5231 FAX (0538) 66-5517

貴船神社
磐田市掛塚926-1

明治安田
浜松城北営業部 TEL 053-478-7227

編集・発行
掛塚まつり協議会資料調査部
編集責任者 名倉 慎一郎
0538(66)4775

令和8年

掛塚まつり

650年の歴史と伝統を今に伝えて

掛塚祭屋台囃子〈静岡県指定文化財〉
掛塚祭屋台・同竹馬〈磐田市指定文化財〉

10/17土18日

静岡県磐田市掛塚 掛塚まつり協議会

湊町掛塚と廻船問屋

廻船問屋旧津倉家住宅

掛塚は、江戸から明治期にかけて、天竜川上流の木材を江戸、大坂に積み出す湊町として繁栄しました。既に室町時代には、五山の僧、万里集九が掛塚に滞在した記録が残されており（『梅花無尽蔵』）、中世から湊としての機能を備えていたと考えられています。

町内には、津倉家や林家などの廻船問屋の建物が残されており、江戸の帰りに積み込まれた伊豆石を使った石蔵や石塀も見られます。令和五年には、旧津倉家住宅（主屋・応接棟・土蔵）が、国の登録有形文化財となり、鶴谷家住宅・旧掛塚郵便局とあわせ、三件六棟の建物が登録文化財となりました。

この廻船問屋は、江戸時代には二十軒程でしたが、明治期には四十軒前後となり、廻船は六〇～八〇艘を所有して、深川木場の材木商と盛んに取引をしていました。また、天竜川の川岸には、木挽小屋（鋸で製材する仕事場）が並び、まちには大工や建具職人が多く住み、木挽や大工が使う鋸を造る鋸鍛冶も多く、木材加工の一大拠点となっていました。街には多くの商店が建ち並び、遊廓なども賑わって、近郷近在からたくさんの人が訪れるこの地方の中心地であったのです。

貴船神社と掛塚まつり

貴船神社拝殿

京都にある貴船神社は、水を司る神として篤く信仰されてきましたが、この神社が掛塚に勧請され、廻船の航海安全を祈る神社として、廻船業を営む豪商や船頭たちの信仰を集めてきました。

この貴船神社の例大祭は、毎年十月の第三土曜、日曜日に行われます。祭りの中心は、日曜日に行われる神輿渡御の行列ですが、これに供奉する九台の屋台は、廻船問屋の財力を背景に造られた豪華なものです。

祭りの起源ははっきりしませんが、先代の神輿には「宝永四年（一七〇七）の朱漆の記載が、神輿に付けられた銅鏡には「元禄十年」（一六九七）の銘があり、江戸初期にはこの祭りが存在していたと考えられます。また、天保十五年（一八四四）の書類には、神幸行列に町々屋台の供奉が記されていて、江戸時代の後期には屋台が曳かれていました。

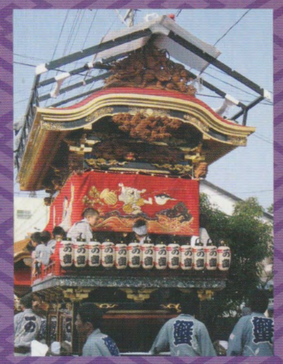
この祭りには、随所に湊町の面影が見られます。行列には「渡海安全」「廻船長久」などの幟が加わり、氏子から奉納された御座船「明神丸」が供奉します。また、「竹馬」と呼ばれる、竹のバレンを持った先払いが、辻々を払って行きます。東町の若者が勤める役ですが、令和六年に磐田市の無形民俗文化財に指定されました。

大組（大当町）

◆屋台　嘉永6年以前の作、作者不詳
◆彫刻　彫雲堂吉門・片桐兵助「竜」
後藤岩五郎「風神雷神」
立川冨惇「松に虎」
桐に鳳凰・玉取姫・月に七つ兎（明治3年、大丸）

志組（新町）

◆屋台　慶応2年、立川和四郎作と伝える
◆彫刻　立川「虎の子渡し」、「石橋山の合戦」、「獅子の玉遊び」、「栗穂に鶉」、腰板に「波に千鳥」
迦陵頻伽と飛竜
◆天幕



可組（蟹町）

◆屋台　大正6年　棟梁坂田歌吉
◆彫刻　新美常次郎「日本武尊と賊」、林萬吉「一の谷の合戦」
伊藤松治郎「牛若丸と弁慶」
「八岐大蛇退治」
笑門に福来る（北斎漫画）
◆天幕

ひ組（東町）

◆屋台　平成9年　棟梁小池清
◆彫刻　早瀬宏「司馬公の瓶割」
「証誠寺」、「狐の嫁入り」
「風神・雷神」
麒麟・睹弓・川遊び
（鳥獣戯画を題材）
◆天幕

貴船神社神輿

◆製作　明治14年　棟梁鈴木勇次郎
◆彫刻　小栗岩十
◆銅鏡　元禄十年八月の銘
◆御簾　寛延元年辰八月の箱書
＊旧神輿が存在し、その部材に「宝永四年丁亥七月」の記銘がある。

掛塚まつりみどころマップ

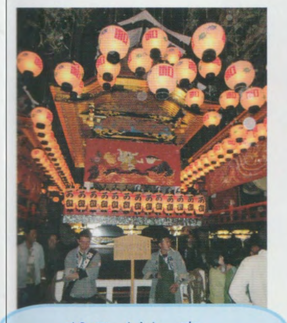
○見どころ
★見どころ
●トイレ

10/17（土）宵祭り

宵祭り屋台曳回しルート ・・・・▶

18日（土）　午後
14:10 本町上に先頭屋台到着
15:15 本町上に屋台全部集合
16:00 屋台が神社に向け出発

18日（土）　夜
16:20 神社に先頭屋台到着
17:30 神社に屋台全部集合
18:00 宵祭の神事斎行
19:10 屋台が自町に向け帰還



磐田市指定無形民俗文化財
「掛塚祭竹馬」神社到着 11:15

19日（日）　午前
9:00　先頭屋台が神社到着
10:15　神社に屋台全部集合
10:30　大祭祭典の神事斎行
11:50　神輿の行列神社を出発
12:40　屋台が御仮宮に向け出発

19日（日）　夜
15:35　神輿が神社に還御
16:50　先頭屋台が神社到着
19:00　屋台が自町に向け帰還

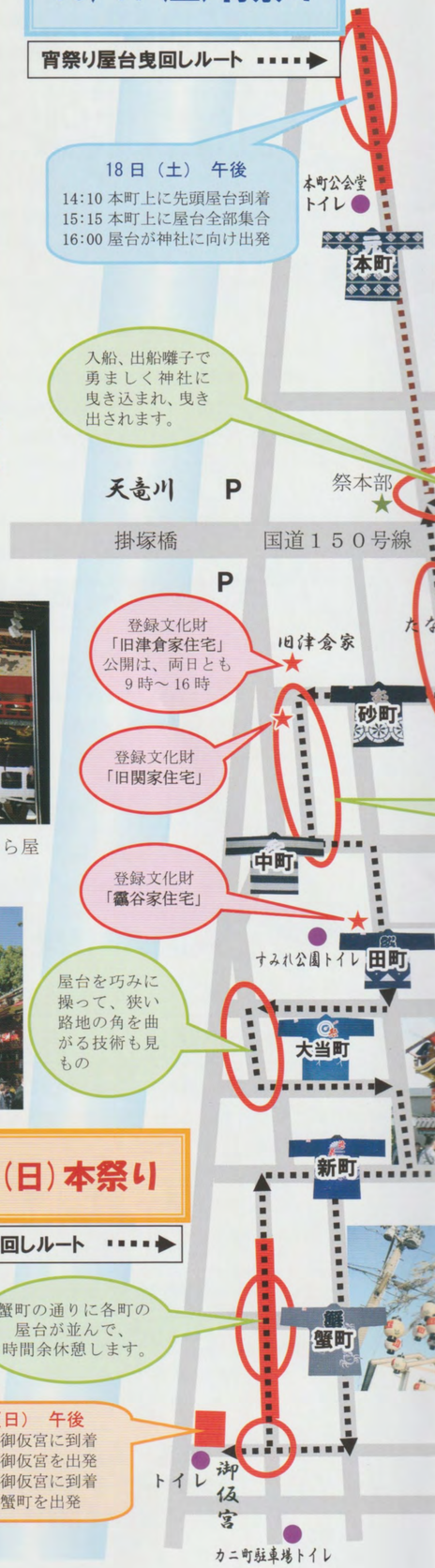
入船、出船囃子で勇ましく神社に曳き込まれ、曳き出されます。

貴船神社

廻船問屋から屋台を見る

屋台を巧みに操って、狭い路地の角を曲がる技術も見もの

屋台の背景は、廻船問屋や石蔵など湊町の名残りを留めた町並



10/18（日）本祭り

本祭り屋台曳回しルート ・・・・▶

19日（日）　午後
13:05 神輿が御仮宮に到着
14:05 神輿が御仮宮を出発
14:40 屋台が御仮宮に到着
15:40 屋台が蟹町を出発

9台の屋台が境内に集り祭りは最高潮

神輿渡御

も組（本町＝元宿）

◆屋台　明治13年　棟梁鈴木伝十
◆彫刻　立川冨種「八岐大蛇退治」
後藤岩五郎「鞍馬の牛若丸」
鈴木伝十「蘭」、「獅子に牡丹・竹に虎」、「牛若丸と弁慶」
頼朝の放し鶴
◆天幕
◆先代屋台は雄踏町の二階屋台という。

寿組（砂町）

◆屋台　明治29年　作者不詳
◆彫刻　鈴木伝十「獅子の玉遊び」
伊藤松治郎「八岐大蛇退治」
大村善太郎・鈴木宇平「九尾の狐」
竹に虎（安政年間）
◆天幕
◆先代屋台は二階建てであったという。

な組（中町＝中宿）

◆屋台　明治39年　棟梁坂田歌吉
◆彫刻　伊藤松治郎「鐘馗の鬼退治」
「獅子に牡丹」「熊襲退治」
早瀬利三郎「司馬公の瓶割」
かくれ里（北斎漫画）
◆天幕
◆先代の屋台は、文久3年立川昌敬作

よ組（横町）

◆屋台　明治40年　棟梁平野勘蔵
◆彫刻　伊藤松治郎「黄石公と張良」
「児島高徳の桜木の誓文」
大村善太郎「加藤清正の虎退治」野々垣清三郎「司馬公の瓶割」
五仙人
◆天幕

田組（田町）

◆屋台　昭和27年　棟梁小池佐太郎
◆彫刻　浦部一郎「大江山鬼退治」
「張道陵仙人」「八岐大蛇退治」「七福神の祝い舞」「二十四孝」「鐘馗」「呂洞賓」
南総里見八犬伝
◆天幕